INFORMATION

北海道医療大学 履修学生

本講義は、Zoomを使用し、リアルタイムで講義を実施します。

下記の学生は選択科目として単位認定を受けることが可能です。
QRコードやメールでの申込ではなく、通常の履修登録の手続きをしてください。

福祉と当事者のリアルⅠ（前期）	福祉と当事者のリアルⅡ（後期）
看護福祉学部臨床福祉学科1年生	看護福祉学部臨床福祉学科2年生
看護福祉学部看護学科1年生	

他学年・他学部については、単位認定はなく、自主的な参加扱いとなります。
参加方法は、下記の一般向けと同様です。

履修方法

①事前にメールにてお送りするURLから参加してください。（出席確認を行うため、画面ONでお願いします）

②講義後にレポートアンケートの提出をお願いします。
※欠席する場合は、別途対応いたしますので、講義開始前までにogiwara@yu-yu.or.jpへご連絡ください。

北海道医療大学 履修外学生／一般参加者

本講義は、Youtubeにて限定配信を行います。

視聴をご希望なさる方は、次の手順でお申し込みください。

①右記のQRコードまたはメール/FAXにてお申し込みください。
メール内容：名前、職業等、年齢、お住まいの地域、電話番号、メールアドレス、参加希望回

②一週間以内に、確認メールをお送りいたします。

③講義終了後にYoutubeの限定URLをお送りいたしますので、ご視聴ください。
（メール送付から一週間のみ視聴可能です）

※転載・録画はお断りしております。　※個人情報は、本講義のご案内以外には使用しません。

名前			お住まいの地域（市町村名）		
電話番号	-	-	メールアドレス		
職業等		年齢	才	参加希望回	

FAX申込先　**0133-23-0811**

運営・お問い合わせ

一般社団法人FACE to FUKUSHI　北海道事務局（社会福祉法人ゆうゆう内　担当：荻原）
〒061-0231 北海道石狩郡当別町六軒町70-18　TEL 0133-22-2896　FAX 0133-23-0811
MAIL ogiwara@yu-yu.or.jp

主催/一般社団法人FACE to FUKUSHI　協力/北海道医療大学、社会福祉法人ゆうゆう

福祉と当事者のリアル

- 受講料無料
- 他学部・他学年の参加OK
- 一般参加もOK

オンライン講座

隔週土曜日開講

誰かのせいにするのをやめませんか。

誰かのせい、政治のせい、社会のせい、時代のせい、
誰かがやってくれるだろうと思っていませんか。
いつまでたっても変わりません。
これからは、自ら学び出会っていく。
まずは、自分の価値観を変えてみませんか。

POINT

- 全国の様々な当事者や実践家との出会い
- 出会いの中から、自分の価値観が変わっていく
- 社会課題が自分事になる
- 一歩踏み出すきっかけになる

コーディネーター
大原裕介

北海道医療大学客員教授
社会福祉法人ゆうゆう理事長

平成15年に北海道医療大学ボランティアセンターを設立し、学生による任意事業の障害児預かりサービスや0歳から96歳までの生活支援サービス等を3年間実施する。卒業後、NPO法人当別町青少年活動支援センターゆうゆう24（現在「社会福祉法人ゆうゆう）」を起業。人口減少時代における、あらゆる住民がそれぞれの立場を超えた支え合いによる福祉的実践を構築する共生型事業や国内外のアール・ブリュット事業の発信、民間活力を活用した社会的事業の研究など社会に必要とされる実践を創り続ける。

5/23（土） 13:00-15:00

コロッケを知らないこども

日本の貧困支援の最前線を行く湯浅さんと被虐待経験ありの二本松さんをお招きし、現在の活動に至る背景や現在の日本の現状について語ります。

湯浅誠さん

社会活動家／東京大学先端科学技術研究センター特任教授／全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長

東京都生まれ。東京大学法学部卒。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。1990年代よりホームレス支援に従事し、2009年から足掛け3年間内閣府参与に就任。内閣官房社会的包摂推進室長、震災ボランティア連携室長など。政策決定の現場に携わったことで、官民協働とともに、日本社会を前に進めるために民主主義の成熟が重要と痛感する。

二本松一将さん

東京都出身。大学進学を機に単身で北海道にある札幌学院大学人文学部人間科学科へ進学、卒業。自身の被虐待経験を『被虐待による愛着障害性とその克服についての一考察』（2019）として整理した。大学生時代には道内で子ども食堂の立ち上げ、道内にある子ども食堂の実態調査し、『北海道における子ども食堂の成立と展開』（2017）としてまとめた。現在は児童相談所一時保護所夜間指導員として勤めつつ、子ども食堂の立ち上げや運営相談に協力している。

POINT
- こどもの貧困について話が聞ける
- 被虐待経験者の話が聞ける

5/30（土） 13:00-15:00

地獄の底に希望の光

依存症経験者であり、現在は薬物依存症の女性を支えるダルク女性ハウスを運営する上岡さんをお招きし、依存症の裏にある社会的背景について語ります。

上岡陽江さん

ダルク女性ハウス代表

10代から薬物依存、摂食障害、アルコール依存に苦しみ、20代半ばで回復施設につながった。1991年に「ダルク女性ハウス」を設立し、依存症の女性のサポートにあたっている。著書に『虐待という迷宮』、『その後の不自由―「罪」のあとを生きる人たち』、『生きのびるための犯罪（みち）』など。

向谷地生良さん

社会福祉法人 浦河べてるの家理事／北海道医療大学教授

青森県生まれ。1974年に北星学園大学文学部社会福祉学科入学。特養ホームに住み込んだり、難病患者や脳性麻痺をもつ人たちの当事者運動にかかわる。卒業後、浦河赤十字病院でソーシャルワーカーとして勤務。精神障害をもつ当事者と教会の一室に住み込み、1984年に「浦河べてるの家」を設立。現在は北海道医療大学教授も兼務。

POINT
- 薬物・アルコール依存症経験者の話が聞ける
- 依存症の裏側

6/13（土） 13:00-15:00

認知症になることは不幸なのか

介護と仕事の両立経験のある町さんとアルマーニトップセールスマンから特別養護老人ホームの経営者となった馬場さんが認知症と介護のリアルについて語ります。

町亞聖さん

小学生の頃からアナウンサーに憧れ1995年に日本テレビにアナウンサーとして入社。その後、報道局に異動し、報道キャスター、厚生労働省担当記者としてがん医療、医療事故、難病などの医療・介護問題などを取材。また北京パラリンピックでは水泳メダリストの成田真由美選手を密着取材。"生涯現役アナウンサー"でいるために2011年にフリーに転身。脳障害のため車椅子の生活を送っていた母と過ごした10年の日々をまとめた著書「十年介護」を小学館文庫から出版。医療と介護を生涯のテーマに取材、啓発活動を続ける。

（公式ブログ
http://ameblo.jp/machi-asei/）

馬場拓也さん

社会福祉法人愛川舜寿会 常務理事

神奈川県生まれ。大学卒業後イタリアのファッションブランド『ジョルジオ アルマーニ』にてトップセールスとして活躍した後、2010年34歳の時に2代目経営者として現法人に参画。2015年 全国20の社会福祉法人共同プロジェクトで写真×論考の書籍『介護男子スタディーズ』を出版。2016年には建築家・造園家・大学生らと共に、特養を囲う壁を取り払い、空間デザインから地域との"距離"を再考するプロジェクトにて『Minowa・座・Garden』を完成させ、特養の庭を誰もがアクセス可能な空間とする。同プロジェクトでは翌年に居室のプライバシーを向上させる改修も実施した。

POINT
- 元日テレアナウンサーであり、18歳から母の介護経験者
- 元アルマーニトップセールスマンが介護現場へ

6/27（土） 13:00-15:00

普通の人になるための人生はやめた

普通ってどういうことだろう。大人になってから障害者だと知り、受け入れた広野さんが語ります。

広野ゆいさん

NPO法人DDAC（発達障害をもつ大人の会）代表

青山学院大学卒。子ども時代から、片付けができない、周りに合わせられないなどの特性があり、"忘れ物の女王""遅刻の帝王"と呼ばれながら学生時代を過ごす。20台後半ADHDを知り、30歳で発達障害と診断される。34歳で離婚。シングルマザーとして2人の娘を育てる。2002年よりADHDのグループを主宰、2008年に「発達障害をもつ大人の会（現NPO法人DDAC）を立ち上げ、リーダー養成講座、発達の凸凹をもつ人へのストレスマネジメントや人間関係の講座、また企業、一般向けの研修、講演を年に数十か所で行う。

POINT
- ADHD当事者のリアル
- 大人の発達障害当事者の話が聞ける

7/4（土） 13:00-15:00

Fairに生きられる社会をつくる

「どんな性のあり方でも、フェアに生きられる社会へ」と掲げ、一般社団法人fairを立ち上げた松岡さんをお招きし、ダイバーシティを受け入れる社会の風潮と受け入れない社会の枠組みについて語ります。

松岡宗嗣さん

1994年愛知県名古屋市生まれ。明治大学政治経済学部卒。政策や法制度を中心としたLGBTに関する情報を発信する一般社団法人fair代表理事。ゲイであることをオープンにしながら、HuffPostや現代ビジネス、Forbes、Yahoo!ニュース等でLGBTに関する記事を執筆。NHK「あさイチ」、日本テレビ「NEWS ZERO」、AbemaTV「Abema Prime」などメディアにも出演。教育機関や企業、自治体等での研修・講演実績多数。

社会福祉法人 浦河べてるの家理事／北海道医療大学教授

向谷地生良さん

POINT
- ゲイであることをオープンにした当事者の話が聞ける

7/18（土） 13:00-15:00

癌がわかった日

大切なひとの死を経験した鎌田さんをお招きし、生きるとは何かについて語ります。

鎌田守さん

中学校教師。25歳で結婚。こどもを出産するか、自分の治療を優先するか、決断をした妻とともに生きる。
現在は、シングルファザーとして、仕事や家事、育児を全うする中、妻の生き方やこれまでの経験から学んだことを次世代に繋いでいくことが自らの使命と感じ、看護学科の大学での講演をはじめ、24時間テレビや北海道新聞などのメディアに出演、掲載。

POINT
- 癌当事者家族の話が聞ける

9/12（土） 13:00-15:00

もう一回、人生やり直しましょうよ

知的あるいは精神的な障害がありながら必要な支援を受けられず、犯罪を繰り返す"累犯障害者"と呼ばれる方を支援する伊豆丸さんをお呼びし、累犯当事者とともに語ります。

伊豆丸剛史さん

長崎県地域生活定着支援センター所長
全国地域生活定着支援センター協議会 事務局長

大学卒業後、アート活動（オブジェ製作）を行う。 その後、ヒッチハイクの一人旅を機に、『眼に見えるもの（オブジェ）』を築くよりも、『眼には見え ないもの（絆）』を築いていくことの美しさに惹かれ、福祉の道を志す。 以後、福岡県において障がい者福祉及び高齢者福祉に従事。平成 21 年 1 月、「社会福祉法人 南高愛隣会」入職。同月より全国に先駆け開設された「長崎県地域 生活定着支援センター」において、罪を犯した障がい者・高齢者等に対する支援に従事。

他、累犯当事者

POINT
- 罪を犯した障害者・高齢者への支援者の話が聞ける
- 累犯当事者の話が聞ける

9/26（土） 13:00-15:00

東大生のリアル～休学をして福祉の現場で働く～

東大生と言えば、大手企業や官僚に勤める時代から一変。今では、とあるきっかけから興味を持ち、福祉の道へ歩みだした今井さんと山本さんが語ります。

今井出雲さん

千葉県中核地域生活支援センターがじゅまる コーディネーター

1995年東京都生まれ。東京大学文学部卒。中高時代、女子校在学中に「女子」に身を置けない自分のあり方に気づき、トランスジェンダーであることを自覚。大学入学後、男女どちらかであることを求められるコミュニケーションの世界に苦しむ。「障害者のリアルに迫る」東大ゼミの運営に携わったことをきっかけに、障害者支援や相談支援の現場実習を行う。2019年4月より千葉県市川市の社会福祉法人一路会に就職し、生活困窮者自立相談支援事業所で相談支援員として勤務。2020年4月より現職で総合相談支援に従事。

山本斐海さん

東京大学3年

1999年、東京生まれ。知的障害のある親戚と過ごしたこと、両親が働く福祉の現場を訪れたことなどから、福祉に関心を持つ。
高校時代、公民の授業を通じて人権に関する判例に興味を持ち、法学部への進学を目指す。2018年、東京大学文科一類に進学。2020年4月から、大学を1年間休学して福祉の現場へ。

POINT
- 現役東大生から話を聴ける
- 福祉学部外の東大生がなぜ福祉現場でインターン?

10/3（土） 13:00-15:00

イランカラプテ～アイヌ文化と出会う～

アイヌ出身ではなく、大学入学とともにアイヌに出会い、実際に二風谷に住んだことのある本田さんがアイヌ文化の今までとこれからを語ります。

本田優子さん

札幌大学地域共創学群教授

1957年、金沢市生まれ。北海道大学卒業後、萱野茂氏の助手として平取町二風谷に移り住む。『萱野茂のアイヌ語辞典』の編纂作業に携わるとともに、二風谷アイヌ語教室子どもの部講師を務める。2005年、札幌大学助教授に着任。文化学部長を経て、11年から副学長を務めた。文学博士（総合研究大学院大学文化学研究科）。

POINT
- アイヌの人と一緒に暮らした生活のリアル
- アイヌ文化から多文化共生を学ぶ

10/17（土） 13:00-15:00

若者たちよ、荒野を目指せ。～Students,be ambitious!!～

東京大学で行われている「障害者のリアルに迫る」東大ゼミの外部顧問を務める野澤さんをお呼びし、福祉の過去と今を語ります。

野澤和弘さん

一般社団法人スローコミュニケーション代表

1983年毎日新聞社入社。津支局、中部報道局（名古屋）、東京社会部、夕刊編集部長等を歴任。社会部ではいじめ、ひきこもり、薬害エイズ、児童虐待、障害者虐待などを担当。論説委員を11年務め、2019年10 月に退社したばかり。現在はスローコミュニケーション代表、植草学園大学教授を務めながら、講演活動等により会社員時代に輪をかけて全国を飛び回っている。

POINT
- 社会問題をずっと追いかけてきた毎日新聞客員編集委員のリアルの話が聞ける
- 若者たちが福祉現場のリアルを聞ける

10/31（土） 13:00-15:00

「地域共生社会」とじぶん

なぜ、この国は地域共生社会というものを掲げたのか。「地域共生社会」の政策立案に携わった野崎さんからこの国が目指すこれからの方向について語ります。

野崎伸一さん

厚生労働省大臣官房総務課広報室長

東京都出身。1999年厚生省入省。児童家庭局、米国留学、医政局、障害保健福祉部、外務 省出向、健康局などを歴任。2017年社会保障担当参事官室政策企画官、2018年に生活困窮者自立支援室長を務める中で、「地域共生社会」のコン セプトづくりや政策立案に関する省内の総括を担う。現職では、地域共生社会のコンセプトや、「ひと・くらし・みらいのために」との省のビジョンを体現する広報を模索している。全国に足を運び、地域づくりの実践に学ぶ日々を送る。

POINT
- 現役厚生労働省の方の話が聞ける
- 地域共生社会の国のねらいを聴ける

お申込は裏面へ！ →